

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名	滋賀県
-------	-----

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	草津市立志津小学校								
学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	4	4	4	4	3	3	3	25	40
児童数	137	137	122	122	112	109	10	749	

研究の概要

1. 研究主題

学 校 教 育 目 標		
自ら課題を見つけ、生涯にわたって、豊かな心で学び続ける子どもを育てる。		
志津小学校の校内研究主題		
自ら興味・関心を持ち、課題解決に向かって意欲的に学習を進め、 確かな力をつける子どもの育成 ～個に応じたきめ細かな指導と評価のあり方を探る～ (学力向上フロンティア事業)		
よく考え	人にやさしく	ねばり強く
問題発見能力 問題解決能力 問題探求能力 自分の考えや思いを表現する能力 既習事項を使って課題を解決できないか見通しを持つ力	人や集団に関わる力 コミュニケーション能力 友達のやり方や考えの良さを見つける力 友達のできるようになったことを認める態度	探求・解決に向けてねばり強く取り組む態度 自己の生き方を考える能力 自分のできるようになったことを振り返る力 学習集団の学ぼうとする力

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

全学年の算数科 児童の理解の状況に差が出やすい教科であるため 系統的に積み重ねていく学習で、つまづくと次の学習に影響が出やすい教科であるため 指導法の研究による成果が子どもにわかる形で現れやすいと考えられるため 1、2年生はTT学習、3～6年生は少人数指導加配教員が入る。
--

(2) 年次ごとの計画

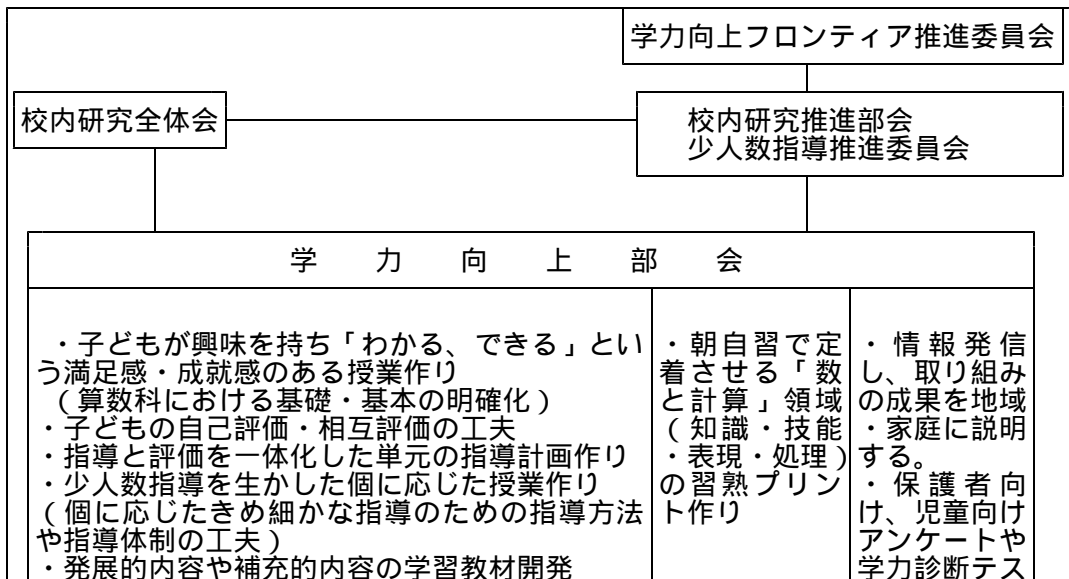
平成	テーマ 自ら興味・関心を持ち、課題解決に向かって意欲的に学習を進め、確かな力をつける子どもの育成 ～少人数指導の効果的な生かし方を通して
----	--

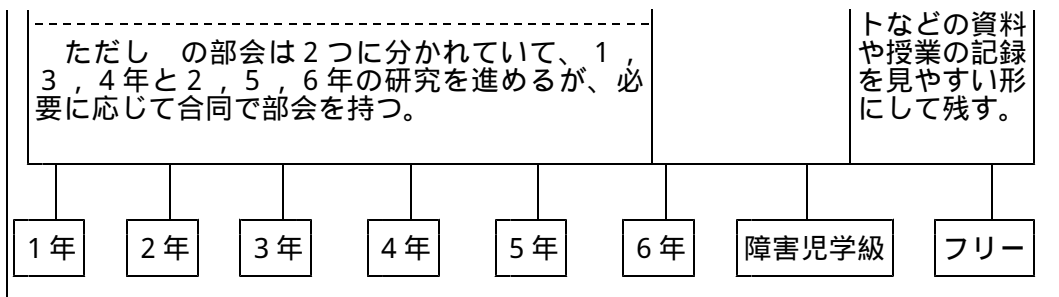
14 年 度	<p style="text-align: center;">個に応じたきめ細かな指導と評価のあり方を探る～</p> <p>研究の見通し（仮説） 各学年での算数科における基礎・基本を明確にし、「わかる、できる」授業を積み重ね、数学的な考え方に迫れば、子どもたちが興味を持ち、進んで学習し、確かな力が身につくだろう。 少人数指導を生かした個に応じた授業を展開し、教材を開発したり、評価方法を工夫したりすれば、子どもたちが主体的に課題追求し、算数科学習に意欲的に取り組むだろう。</p> <p>研究の内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「わかる、できる」という満足感・成就感のある授業作り ・算数科学習指導における教材研究の深化と基礎・基本の明確化 ・発展的な学習や補充的な学習など個に応じた指導のための指導方法・指導体制の工夫改善 ・地域、家庭、学校の協力体制のあり方ならびに地域に開かれた学校（保護者・地域への取り組み説明、アンケート調査実施） ・積極的な研修への参加（教員の意識改革と資質の向上）
--------------	--

平成 15 年 度	<p style="text-align: center;">テーマ</p> <p>自ら興味・関心を持ち、課題解決に向かって意欲的に学習を進め、確かな力をつける子どもの育成 ～個に応じたきめ細かな指導と評価のあり方を探る～</p> <p>研究の見通し 平成14年度に同じ</p> <p>研究の内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単元の指導計画を作成 ・教材研究を深め、基礎・基本の明確化 ・指導と評価の一体化を意識した指導方法（個に応じた指導）の開発 ・保護者・地域の方からの評価 <p>〔2月6日に学力向上フロンティア地域協議会を開催し、実践の成果を公開〕</p>
--------------------	---

平成 16 年 度	<p style="text-align: center;">テーマ</p> <p>平成15年度に同じ</p> <p>研究の見通し 平成14年度に同じ</p> <p>研究の内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単元の指導計画を冊子にし、小学校へ配布 ・教材研究を深め、指導ポイントの明確化 ・指導と評価の一体化を意識した指導方法の開発 ・保護者・地域の方からの評価と成果説明
--------------------	--

(3) 研究推進体制





平成15年度の研究の成果及び今後の課題

1. 研究の成果

子どもが興味、関心を持ち「分かる。できる」という満足感のある授業づくり一人ひとりが課題の自力解決に取り組む中で、自分なりの考えを持つことを大切にしている。

算数的な活動を通してその子らしいつまずきや気づきが生まれた時、個に応じた支援が意味を持つ。はじめから自分なりにやってみたくなるような授業の工夫もせずに、安易にヒントやアドバイスを入れるのは、きめ細かな支援ではなく、子どもから考える力や、気づいたときの喜び、自力解決できたときの達成感を奪うことになり、「次も自分でやってみよう」と思う子どもは育たない。

できるだけ日常生活に題材を見つけ、子どもが何をするか分かりやすい課題の与え方を工夫し、子どもの動きを予想して教材を十分に準備することで、満足感の味わえる授業を作っている。

子どもの自己評価・相互評価の工夫

少人数授業を進めると、担任は、クラスの半分が、それ以上の子どもの学習の様子を見られない。いろいろな友達と片寄りなく、どちらの教師にも受け持たれるように、単元ごとに名簿の順や座席の場所や班ごとなどいろいろな分け方でグループを編成している。しかし親に子どもの学びの姿を具体的に伝えるのは担任である。結果だけで評価するのではなく、発表や課題に取り組む姿や発表しなくても考えていることで「関心・意欲」や「考える力」を知るために、子どもたちの自己評価カードが有効であった。

毎時間のねらいを自分で意識し振り返って書くことで、自分のつまずきや課題を意識することができる。また教師からの励ましや質問に対するコメントを読み、意欲を高める効果もあった。

少人数指導を生かした指導方法や指導体制の工夫

高学年担当の少人数加配教員と中学年担当の少人数加配教員が、担当学年の算数の学習を2学級や学年で行うことにより、空き時間を生み出す。

その時間に中学年の加配が高学年に加わって、習熟度別学習の1つのグループを担当することにより、普段の少人数よりさらにきめ細かな支援ができる。

それぞれの学年が同じ時期に指導体制を工夫して単元指導計画を立てることで無理なく実行できるので、今後も取り入れていく。

評価と指導の一体化した単元指導計画づくり

単元の学習を終えてからまとめのテストをして評価するのは「評価のための評価」で、子どものつまずきに対応する時間を十分とることができない。分からないまま次への学習に向かうことになり、進んで学習しようという意欲を育てる事が、難しい。

毎時間の課題を達成できたかを子どもの姿で具体的に見取る場面を単元指導計画に位置づけた。この時間に何を大切にするかを学年で話し合い、4観点から絞り込むことで、教材研究が深まり、指導力の向上にもつながっている。

絶対評価への転換を受けて、単元目標を観点別評価に生かすための基礎・基本の明確化

学習指導要領解説 算数編を手元に置いて絶えず読み返すことで、基礎・基本が分かる。少人数指導担当と学年が共通の観点で公正な評価をするために単元に入る前や毎時間の放課後や単元の学習を終えてから話し合う時間を大切にしている。

習熟度別学習、課題別学習、少人数指導、複数指導などによって個に応じた指導をするための発展学習や補充学習、定着のための反復練習などの教材開発

他社の教科書と比較検討し、「どんな活動を通して」「どんな言葉で定義して」「どんな具体物を使って」学習させると子ども自身が「やってみたくなるか」、算数的活動を通してねらいに迫れるかを考えて、課題場面や準備物を選んだ。

2. 今後の課題

今年度、個別に課題を迫及する場面で子どもの実態に合った教材を準備し、算数的な活動を十分させれば、子どもの気付きが生まれる授業を仕組めることが分かってきた。

さらに、子どもたちがそれぞれのやり方や見つけたことを交流し合う中で、よりよいものを作り上げていく楽しさや、友達の考えを聞き、自分のやり方を説明することの満足感を味わわせたい。

そのために、集団で課題解決に向かう場面で適切な発問や個別の支援ができるように、教師の授業力を高めていきたい。

算数科の研究をして分かってきたきめ細かな看取りと支援（評価と指導の一体化）の方法を他教科の指導にも生かし、「できる」「わかる」「つかえる」という確かな学力を付けさせる。

「フロンティア通信」（仮称）の発行など、学校の取り組みや新しい学力のとらえ方について説明する機会を増やす。家庭でも学習の発展的な活動をして、学んだことが使える経験をしたり、学校での学習に取り組む意欲を支える基本的な生活習慣を身につけたりすることの大切さを伝える。学校と家庭との連携を深め、子どもに確かな学力を付けていく。

学力等把握のための学校としての取組

確かな学力を、「関心・意欲、考える力、表現・処理、知識・理解」の全部と考へ、「自ら興味・関心を持ち、意欲的に学習を進める」子どもを育てることをめざしている。

保護者から見た家庭学習に取り組む児童の姿、児童自身の算数科の学習に取り組む気持ち、子どもがどう変わったと教師が感じているかの3者の立場で捉えるためにそれぞれアンケートを実施した。

【実施内容】

保護者アンケートは、「家庭での学習時間」「算数の学習について話すことがあるか」「学校での取り組みについて質問意見があれば」など（2学期実施）

児童アンケートは、「算数は好きか」「少人数の学習は好きか」「少人数で学習して嬉しいことは」「少人数で学習していやなことは」など（1学期実施）

教師アンケートは「少人数、T・T、習熟度別、課題別や朝のわくわく学習による基礎学力の定着、単元指導計画づくり、振り返りカードによる子どもの自己評価はそれぞれ学力向上に効果があると感じますか。」（具体的な児童の姿で）など（2学期末実施）

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

平成16年2月6日（金）学力向上フロンティア事業第2地区協議会を開催し、3学年と5学年で少人数指導による授業を公開し、研究の成果を説明する。研究冊子を作成し、市内の小中学校、草津市教育委員会、教育研究所、滋賀県総合教育センターなど関係諸機関に配布し、研究の成果を普及すると共に、次年度の研究について指導助言を受ける。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

【新規校・継続校】	15年度からの新規校	14年度からの継続校		
【学校規模】	6学級以下 13～18学級 25学級以上	7～12学級 19～24学級		
【指導体制】	少人数指導 一部教科担任制	T・Tによる指導 その他		
【研究教科】	国語 生活 体育	社会 音楽 その他	算数 図画工作	理科 家庭
【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】		有	無	